

さまざまな取り組みが
あります

地元でできる

中野区・中野

一般社団法人 日本リ・ファッション協会



宮城県亘理町の高校生に配布

宮城県亘理町の高校生にリュックやTシャツなどを届けた。机もない場所での配布だったが、好きな柄のTシャツを選ぶ女の子たちの笑顔が印象的だった



被災地での就労支援も

被災地にある店舗の一角を利用した配布所。被災者をパート採用し、職を生むことにも協力している



倉庫での仕分け作業

福島県内の倉庫では、もらった人が心地よく使えるよう、汚れや傷みの有無をチェック



陸前高田でのバザー

クリスマスに開催。「買い物を楽しむ」という行為に、多くの女性に笑みがこぼれた

こんな被災地支援活動をしています

主な活動&今後の予定

都内でも、震災からまだまだ復興していないことを広く知ってもらうためのイベントやシンポジウムなどを開催している。被災者に直接話を聞く機会や、被災地の物を買うことで支援につなげる取り組みなども行う。今後の開催スケジュールはHPで確認を。



渋谷で開催した支援品回収イベント。1日で1000人以上が来場し、6トンもの物資が集まった

参加するには？

応募方法

支援物資や支援金の寄付を随時募集中。HPの「よくあるご質問・ご注意」を参照のうえ、記載されている送り先に直接郵送・振り込みを。送ってもいい物かどうか判断に迷った場合などは、事前にメール(info@refashion.jp)で問い合わせよう。

準備と心構え

物資を送る際は、受け取る側の気持ちになって、心地よく使えるものを選びたい。季節の変わり目が東京とは異なるので、それを考慮するとよい。また、単発の支援ではなく、継続していこうという思いを持つことも大切。

支援物資は随時募集中！

余剰分も有効活用

いいものを長く愛用するため、「Re（再び）」のつくアクションを起こすことを提唱する「日本リ・ファッション協会」。服育などのために、同協会の倉庫に集められていた中古衣類などの中から、支援物資になる物を、震災後すぐに被災地へ届け、その活動は現在も継続されている。

「被災地」に行ってみて感じたのは、格差の大きさ。ボランティアも物資も、十分どころもあれば、まったく足り

ないところもあるんです。私たちは、一般の方や企業から寄付された物資を、支援を必要としながらも、取り残されている方々に優先して届けています。それでもまだ物資が十分だとは言えません」

物資の不足状態は依然続いているとはいえず、時期によっては集まりすぎて余ってしまうものも。

「以前、毛布が余ってしまった時には、湯たんぼカバーに作り変えて届けました」

たとえそのままでは需要がない物でも、リ・ファッション協会ならではの発想で生まれ変わり、無駄なく活用されているのだ。

「今後は物資の支援だけでなく、コミュニティーを作るためのひとつのツールとして、ソーイングカフェを開いたり、被災者が安心して働いていける場所を提供することに力を入れていきたいですね」



代表理事の鈴木純子さん
2009年に協会を設立。現在は被災者の就労支援にも取り組んでいる



DATA
一般社団法人
日本リ・ファッション協会
〒東京都中野区中野4-1-1 中野サンプラザ9F ☎03-5942-3028
☎9:00~18:00(問い合わせ時間、土日祝は除く)
☎電/JR中央線、東京外口東西線「中野駅」より徒歩1分
☎http://www.refashion.jp/